

安全」「5. 正当な評価」であることがわかった。

F. 健康危険情報
該当せず。

G. 研究発表
1. 論文発表
該当なし。
2. 学会発表
該当なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）
該当せず。

I. 参考文献：米国心理学会 Psychologically
Healthy Workplaces <http://www.phwa.org/>

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
堤 明純.	メンタルヘルス対策の現状と将来―内外の取り組みを踏まえて.	公益財団法人日本生産性本部メンタル・ヘルス研究所編	産業人メンタルヘルス白書 2010年版	公益財団法人日本生産性本部メンタル・ヘルス研究所	東京	2010	105-115
島津明人.	ストレスマネジメント	海保博之(編)	感情と思考の科学事典	朝倉書店	東京	2010	302-303
吉川徹、川上憲人、小木和孝		中央労働災害防止協会(編)	メンタルヘルスのための職場環境改善～「職場環境改善のためのヒント集」です すすめるチェックポイント30～	中央労働災害防止協会	東京	2010	
堤 明純	メンタルヘルス対策の現状と将来―内外の取り組みを踏まえて	公益財団法人日本生産性本部メンタル・ヘルス研究所編	産業人メンタルヘルス白書 2010年版	公益財団法人日本生産性本部メンタル・ヘルス研究所	東京	2010	105-115
島津明人	メンタルヘルス対策を評価する. In: 廣尚典(編)	廣尚典	チームで取り組む職場のメンタルヘルス	診断と治療社	東京	2011	84-89

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Shimazu A, Bakker AB, & Demerouti E.	How job demands affect the intimate partner: A test of the spillover-crossover model in Japan	Journal of Occupational Health	51	239-248	2009
Umanodan R., Kobayashi Y, Nakamura M, Kitaoka-Higashiguchi K, Kawakami N, Shimazu A.	Effects of a Worksite Stress Management Training Program with Six Short-hour Sessions: A Controlled Trial among Japanese employees	Journal of Occupational Health	51	294-302.	2009
Shimazu A, Schaufeli, WB	Is workaholism good or bad for employee well-being? The distinctiveness of workaholism and work engagement among Japanese employees	Industrial Health	47	495-502	2009
Schaufeli WB, Shimazu, A, Taris TW.	Being driven to work excessively hard: The evaluation of a two-factor measure of workaholism in The Netherlands and Japan.	Cross-Cultural Research	43	320-348.	2009
Tsutsumi A	Development of an evidence-based guideline for supervisor training in promoting mental health: literature review.	Journal of Occupational Health.	53	1-9.	2011
Hayashi T, Odagiri Y, Ohya Y, Tanaka K, Shimomitsu T.	Organizational justice, willingness to work and psychological distress: results from a private Japanese company.	Journal of Occupational and Environmental Medicine.	53(2)	174-181	2011
Shimazu A, Demerouti, E, Bakker AB, Shimada K, Kawakami N	Workaholism and well-being among Japanese dual-earner couples: A spillover-crossover perspective	Social Science & Medicine,	73	399-409.	2011
Shimazu A, Sonnentag, S, Kubota K, Kawakami N..	Validation of the Japanese version of Recovery Experience Questionnaire.	Journal of Occupational Health.		in press	
堤 明純	WHOによる世界の職場のメンタルヘルスガイドライン	産業ストレス研究	16(4)	211-216	2009
小田切優子	デンマークにおける産業ストレス対策	産業ストレス研究	16(4)	217-222	2009
吉川徹、小木和孝	労働安全衛生マネジメントシステム (OSH-MS) への寄与としての参加型ストレス予防活動の役割	産業ストレス研究	16(4)	221-229	2009
中島美鈴、稗田道成、島田俊夫、島津明人	集団認知行動療法の比較化対照試験による効果検討	精神科治療学	24	851-858.	2009
馬ノ段梨乃、島津明人	e-ラーニングによる健康教育:労働者のストレス対策に注目して	健康開発科学	13(2)	13-18	2009

馬ノ段梨乃、土屋政雄、 島津明人	職場における個人向けスト レス対策 - 介入方略の変 遷と新たな視点-	産業医学ジャー ナル	33	103-107	2010
馬ノ段梨乃、土屋政雄、 島津明人	職場における個人向けスト レス対策 - 介入方略の変 遷と新たな視点-	産業医学レビュ ー	33	103-107	2010
島津明人	健康心理学の医学への応 用: 心理社会的ストレスに注 目して	医学のあゆみ	235	181-182	2010
吉川 徹、小木和孝	ストレス予防における職場 環境改善良好実践と改善支 援ツールの役割	産業ストレス研 究	17	267-274.	2010
吉川徹	良好実践に学ぶ、働きよい職 場づくり～プロセス支援と しての参加型職場改善とメン タルヘルス対策～.	労働の科学	10	8(584)-12 (588)	2010
吉川徹	ツールを活用したメンタル ヘルス対策、メンタルヘルス アクションチェックリスト の特徴と活用方法.	心のオアシス	Spring	15-19	2010
小田切優子, 下光輝一	産業ストレスと疲労.	JIM	20(11)	840-843	2011
川上憲人	職場のメンタルヘルスの国 際潮流と日本型枠組みの確 立に向けて	産業精神保健	18(4)	281-285	2010
川上憲人	働く人のうつと自殺の予防: 海外の取り組みとわが国の 問題解決の方向性	学術の動向	15(10)	10_28-10 _31	2010
江口尚	職域におけるソーシャル・キ ャピタルと健康影響	産業医学ジャー ナル	34(2)	94-99	2011
堤 明純	職場ストレス対策の一次予 防: 内外の動向.	ストレス科学			(印刷 中)
川上憲人	職場のメンタルヘルスをめ ぐる国際動向と日本の優先 課題	産業ストレス研 究	18(4)	233-240	2011
堤 明純	職場ストレス対策の一次予 防: 内外の動向.	ストレス科学	26 (1)	65-77	2011
吉川 徹	「職場巡視と衛生委員会の 活性化における産業医の役 割」働きやすく、働きがい のある職場づくりの共通軸- 職場環境改善を通じたスト レス対策、厚労省研究班の取 り組みから-	平成 23 年度地方 公務員安全衛生 推進協会産業医 講習会講演集		33-66	2011
吉川 徹.	特集: ストレスをためない職 場環境づくり. ~職場の良好 実践に学ぶ、従業員参加型 のメンタルヘルス活動~	安全衛生のひろ ば	52(5)	9-19	2011

杉原由紀	産業医の声：「元気な県庁」へ～職場ドックの取り組み～	産業医学ジャーナル	34(5):		2011
吉川 徹	職場のいじめ・暴力・ハラスメント防止対策の推進への3つの提言視点	労働の科学	67(1)	42-46	2012
川上憲人	日本のリスク-法的リスクのマネジメントからポジティブなメンタルヘルスへの転換	リスクマネジメント TODAY	70	16-19	2012
島津明人	職場のメンタルヘルス対策における第一次予防:科学的根拠にもとづくセルフケアを中心に.	保健の科学,	54		(印刷中)

